

召命の証

渡部信

私は1948年生まれで、この年は戦後出生者が最も多い団塊の世代です。戦後の貧困、高度成長期、学生運動、そして土地バブル、バブル崩壊とデフレ・・・今や、日本経済が世界2位から30位に転落する成長のないアベノミクスを経験しました。同時に、日本の教会の紆余曲折も。70年代の造反運動を体験し、80、90年代のバプテスト教会の安定成長期を経験し、現在の召命の道を歩んでいます。

私の召命と献身の動機は、クリスチャン少数者であることです。当時クリスチャン人口が100万人と言われ1%なので、せめて5%とか10%になるようにビジョンを抱きながら、ヨハネの21章に記されているイエス様のみ言葉「私を愛しているか」「私の羊を飼いなさい」の御言葉によって、当時、音大の作曲科を目指していたのですが、全てを捨てて従いました。1971年に青山学院大学の神学科に入学したのですが、学内は造反運動で混乱状態、それが諸教会にも及び、日本中の殆どの神学校がこの紛争に巻き込まれて、キリスト教界も危機的状態の中、この神学科も最後の卒業生をもって廃科が決定されました。福音を宣べ伝えるために献身したので、次のステップを当時の連盟常務理事の中島先生を尋ね、西南学院大学専攻科を大井バプテスト教会から推薦して頂き1年間学びました。そしてアメリカのテキサス州にあるベイラー大学院宗教学部に入学、研鑽を積み重ねました。けれどもこのアメリカ4年間の滞在中に南部バプテスト教会で按手礼を受け、本当に素晴らしい恵みの宣教を体験できたことは今でも人生の宝です。また現地に住む日本人集会の牧師として働けたことも感謝でした。

留学終了後に、松村秀一牧師が牧会する常盤台教会の協力牧師として招聘を受け、妻と結婚。その後、鹿児島教会、水戸教会と招聘を受けながら16年間牧会、伝道していましたが、ある日突然、銀座にある財団法人日本聖書協会から総主事としての招聘状を頂き本当に驚きました。聖書は私が最も大事にする信仰の唯一の導き手ですし、専攻がエキュメニカル分野でしたので、日本国内外の全ての教派に仕え、聖書普及の事業を通して、翻訳・頒布という文書伝道に携わりながら様々な地域と国々のキリスト教国を支援、宣教が成長する姿を見て来ました。アツと言う間の20年間で過ぎ、昨年72歳で完全引退しました。その間、岡村正二牧師が牧会する志村教会、その後、常盤台教会の協力牧師として教籍を置きつつ、バプテスト連盟の皆さまと共に奉仕をさせて頂いております。

私の信仰の歩みは、青年時代に聖書に出会い、聖書は「神様と直接、通じる道を教えている本だ」と悟り、信仰決心をしました。心が開眼したと言えるような不思議な出来事で復活のイエス様に出会った瞬間でした。それ以来、聖書はいかなる時も人生の指針です。私が召命の時に与えられたビジョンが、日本でも必ず成就される時が来ますように祈っております。